

施工フロー

01 前処理

ひび割れ補修、鉄筋腐食補修などを行う。
(別途工事)

02 プライマー塗布

下地に応じて適宜、プライマーを選択する。

C1 プライマーAP

タイルやモルタルとの付着を高める場合

- 標準使用量：0.15～0.20kg/m²
- 養生期間：1時間以上

C2 プライマーDP(5倍希釈)

下地モルタルの吸水が著しい場合

- 標準使用量：0.08～0.10kg/m²
- 養生期間：2時間以上

03 下地調整

既存仕上げの不陸に応じて、コンスモルタルまたはセメント系下地調整塗材で不陸の調整を行う。

04 コンスモルタル塗布(1回目) および専用ネット張付け

コンスモルタルを塗り付け、追っかけで専用ネットを張り付ける。

[標準塗布厚さ]

1.5～2.5mm

[養生時間]

1日以上

05 アンカー孔穿孔 およびMCアンカー打込み

アンカー孔を4本/m²以上となるように穿孔しアンカーピンを打ち込む。

[標準施工本数]

外壁面：4本/m²

06 コンスモルタル塗布(2回目)

コンスモルタルを所定の厚みに塗り付ける。コンスモルタルの水引きを見計らい、金鏝で平滑に仕上げる。

[標準塗布厚さ]

1.5～2.5mm

(塗布厚さは1回目と2回目を合わせて4mmを確保)

[養生時間]

7日以上

07 各種仕上げ材の施工

各種仕上げ材を施工する。
(JIS A 6909 適合品、タイル仕上げは不可)

+α 外壁剥落防止+防水性付与 リアネットE工法

- ▶ よく伸びて割れない、剥がれない高弾性アクリルゴムを使用し、防水性を確保。
- ▶ 中性化抑制・塩害抑制・その他外的劣化因子を遮断し、建物を守ります。



ビルの外壁剥落防止・改修に/ コンスネット工法

- ▶ 建設技術審査証明を取得
- ▶ 剥落防止 最長20年保証

正しい診断・たしかな施工

株式会社 コンステック



コンステックは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

URL <https://www.constec.co.jp>
Mail info@constec.co.jp



ホームページ

■本社 〒540-0031 大阪市中央区北浜東 4-33 北浜ネクスビル
TEL (06)4791-3100 (代) FAX (06)4791-3102

■支店 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・神戸・松山・広島・福岡

■営業所 帯広・福島・新潟・横浜・富山・金沢・福井・静岡・高松・高知・岡山・山口・北九州・長崎・熊本・鹿児島・沖縄



事業所一覧



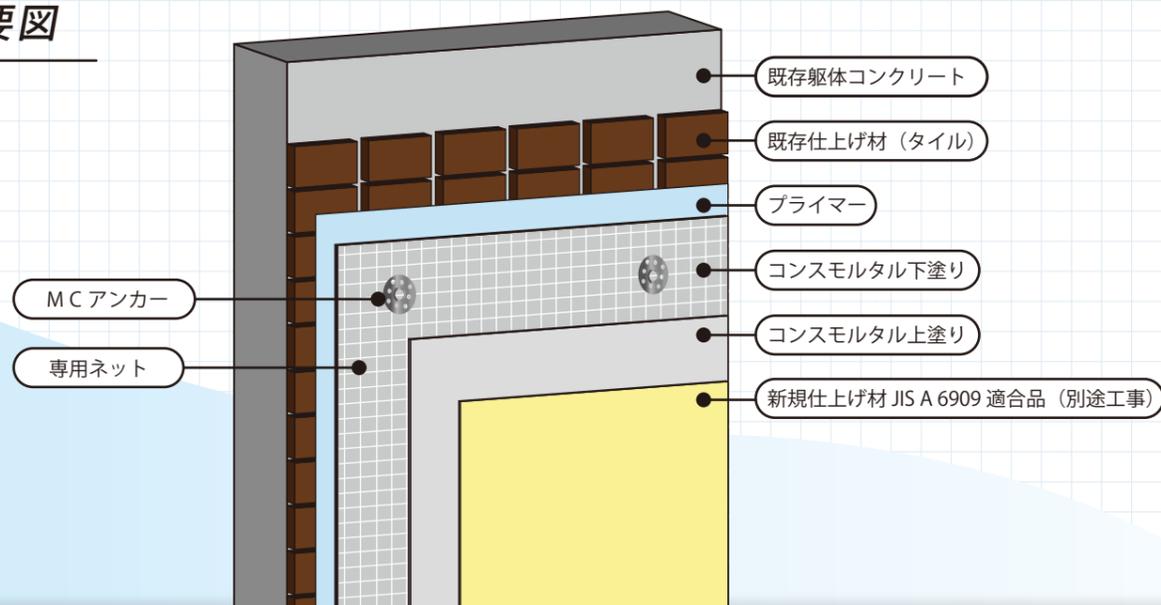
コンすけ

コンスネット工法 CONSNET METHOD

カチオン性一材型ポリマーセメントモルタルを用いた外壁複合改修工法

コンスネット工法は、一材型ポリマーセメントモルタルとネットで外壁全面を覆い、アンカーピンでしっかりと固定することで、外壁仕上げの剥落を防止する外壁複合改修工法（ピンネット工法）です。剥落防止性能に加え、改修後の維持管理方法についても（一財）日本建築センター建設技術審査証明の評価を取得しています。2005年の施工開始以降、コンスネット工法を採用した外壁の剥落事故は一度もありません。

概要図



BCJ- 審査証明 - 82



第三者による性能評価

（一財）日本建築センターによる建設技術審査証明を取得。「コンスネット工法」の外壁仕上げ材剥落防止性能と、施工後の維持管理方法について認められています。

施工例



集合住宅の外壁改修

▼ 使用材料

材料	製品名	組織・仕様など	荷姿
プライマー	C1 プライマー AP	水系エポキシ樹脂	16kg/ セット(A・B剤:各8kg)
	C2 プライマー DP	吸水調整材	18kg/ 缶
モルタル	コンスモルタル	一材型ポリマーセメントモルタル (再乳化形粉末樹脂を使用)	20kg/ 袋
ネット	専用ネット	ビニロン製2軸ネット ポリプロピレン製2軸ネット	幅 110cm×100m
アンカーピン	MC アンカー	ステンレス製機械式アンカーピン 直径:6mm、長さ:30,50,60,70mm (100mm以上は受注生産) ワッシャー:φ25mm	200本 / 箱 ワッシャー 200枚

コンスモルタルの特徴

- ①水を加えるだけの簡単調合で、材料品質が安定。
- ②JIS A 6916「建築用下地調整塗材 C-2」の品質基準に適合する材料。
- ③一材型で、下地調整・ネット張り・塗装下地の三役に対応。

POINT 5つの特長

剥落防止 最長20年保証

維持管理方法についても建設技術審査証明にて評価されており、剥落防止性能を長期間維持することができます。また、再改修することにより、施工保証を10年間延長することができます。再改修では、防水性の高いメンテナンス層を形成することで、建物の耐久性・防水性を高めることも可能です。



再改修工程

1. 一次改修部の目視検査・破壊調査 ※
 2. アクリルゴム系防水材中塗り（1～2回）
 3. 模様付け
 4. トップコート塗布（2回塗り）
- ※再改修前に既存のピン、ネット等の物理試験を行い、基準を満たしている必要があります。また、ひび割れやピンの抜け等の不具合部は、適切な補修が必要です。

外壁の剥落防止

ネットで補強した複合改修層をアンカーピンで躯体に固定することで、既存仕上げ材（タイル・モルタル等）の剥落を防止します。

環境負荷の低減

既存仕上げ材の廃棄をなくすとともに、一材型ポリマーセメントモルタルの使用により、現場における廃液・廃缶の発生を低減します。

予防保全効果

外壁全面を補修するため、今後生じる可能性のある隠れた劣化に対しても予防保全を図ることが可能です。

品質の確保

施工技術を取得した資格者の責任施工体制で、たしかな品質を確保します。